

吉野弘追悼展

酒田のうた

— 現代詩人の系譜 —



吉野 弘

平成26年

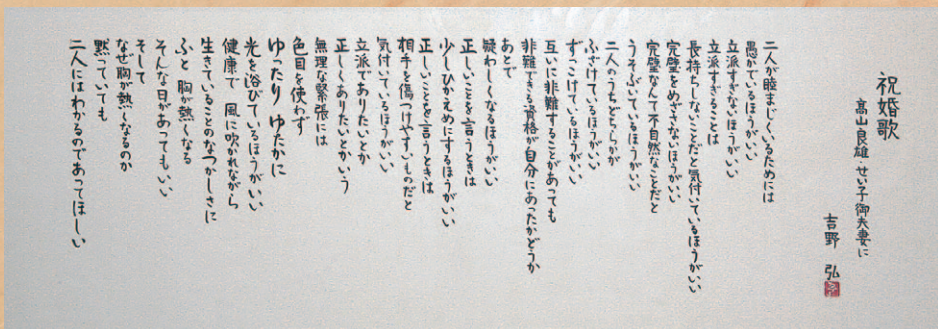
9月20日(土)～

11月24日(月)

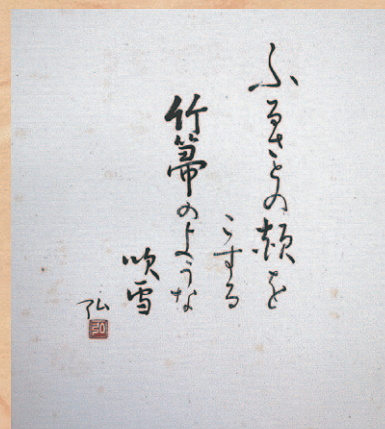
開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 展示期間中無休

入館料 一般 100円
小学生～大学生 50円
(土日は小・中学生無料)



吉野弘直筆「祝婚歌」(個人蔵)



吉野弘直筆「スキンシップ」
(個人蔵)

酒田市立資料館
SAKATA CITY MUSEUM

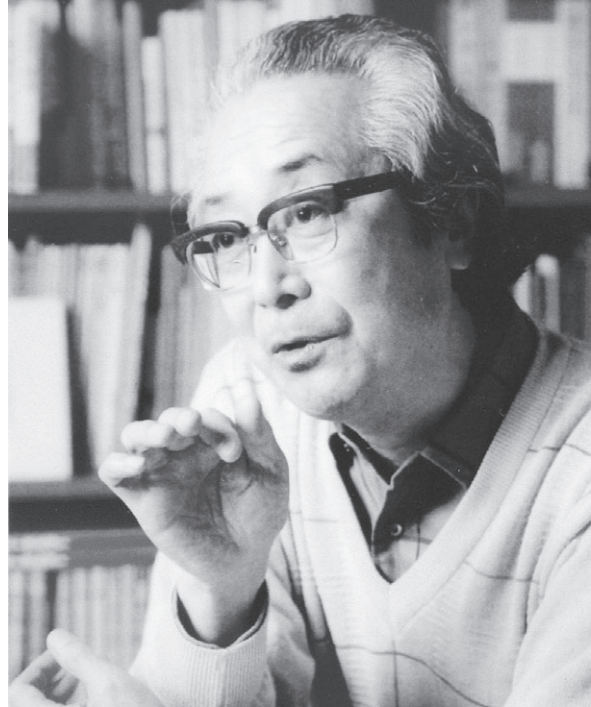
吉野弘追悼展

酒田のうた — 現代詩人の系譜 —

今年1月に亡くなった酒田市出身の詩人・吉野弘。「I was born」「祝婚歌」など、幅広い年代に愛される作品を世に送り出してきた、戦後の日本を代表する現代詩人です。

戦後の現代詩は、敗戦という世の中の激変を体験した若者によって作られ、語られました。酒田の若者たちも、サークルを結成したり、中央の文芸誌に投稿するなど、熱心に詩作に取り組みます。吉野弘もそうした若者の一人でした。

吉野弘が残した作品と、戦後の酒田で詩人として歩んだ道のりを紹介するとともに、戦前から酒田の文化の担い手として活躍した佐藤十弥、同じく戦前から詩壇で名を知られながら、若くして亡くなった加藤千晴など、酒田の現代詩人の系譜をたどります。



吉野 弘 大正15年(1926)～平成26年(2014)

酒田商業学校(現在の酒田光陵高等学校)卒業後、帝国石油(株)に入社。酒田の同人詩誌「^{こだま}笏」、詩人・茨木のり子、川崎洋らが始めた「^{かい}権」などに参加。36歳で退職し、コピーライターを経て文筆業に専念する。作風はやさしく平明で、国語の教科書にも取り上げられている。昭和47年(1972)に読売文学賞、平成2年には詩歌文学館賞を受賞している。

酒田市立琢成小学校、同泉小学校の校歌、酒田市制50周年記念「風光歌」の作詞などを手掛けた。平成8年、酒田市特別功労賞を受賞。



佐藤 十弥

明治40年(1907)～昭和55年(1980)

法政大学中退後、雑誌社などに勤めた後に帰郷。詩人、画家、デザイナーとして、酒田の出版文化、商業美術界に大きな足跡を残した。高山樗牛賞、斎藤茂吉文化賞などを受賞。著書に『つぶらなるもの』など。



大滝 安吉

昭和2年(1927)～昭和40年(1965)

東北大学法文学部在学中、肺結核にかかり休学。酒田で療養生活を送る。吉野弘らとともに『笏』『権』などに参加し、詩作に没頭するが、37歳で死去。死後、吉野弘が編集した『大滝安吉詩集』が出版された。



加藤 千晴

明治37年(1904)～昭和26年(1951)

青山学院高等学部卒業。京都の旧制第三高等学校に勤務する傍ら詩作に励むが、眼病のため退職。その後、酒田に疎開する。失明した後も、詩作や論文、手記の執筆を続けた。著書に『宣告』『観音』など。



太田 清蔵

大正13年(1924)～平成19年(2007)

昭和17年から同55年まで国鉄に勤務。労働組合活動に取り組み、サークル誌「歩行群」を主宰。酒田の文化・文芸活動の中心となり、退職後は3年にわたり画廊を経営するなどした。著書に『瘦^{そく}軀の歌』など。

資料協力

吉野喜美子氏、久保田奈々子氏、梅原万奈氏、高山せい子氏、成田邦雄氏、太田町子氏、齋藤智氏、高瀬靖氏、田中蒼子氏、(株)小松写真印刷、(公財)本間美術館、山形県立酒田光陵高等学校、酒田市立光丘文庫、酒田市立琢成小学校

次回企画展

庄内に残る甲冑

平成26年11月29日(土)～平成27年2月8日(日)

★講演会「吉野弘と酒田の詩人」★

日 時：10月11日(土) 午前10時～12時

(調査員による展示解説30分含む)

講 師：高瀬靖氏(山形県詩人会会長)

定 員：20名(要申込、定員になり次第締切)

料 金：無料(入館料別途必要)

※9月16日より申し込みを受け付け致します。

駐車場に限りがございますので、申し込み時にお問い合わせ下さい。 問 TEL.0234-24-6544